

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

1c974 U.S. PRO
09/780413
02/12/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
in this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

2000年 6月 2日

出 願 番 号
Application Number:

特願2000-170415

出 願 人
Applicant(s):

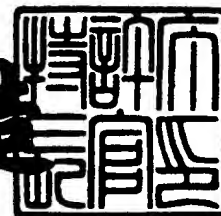
株式会社日立製作所

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2000年10月 6日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3081688

【書類名】 特許願

【整理番号】 H00010421A

【提出日】 平成12年 6月 2日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04L 12/56

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都国分寺市東恋ヶ窪一丁目 2 8 0 番地
株式会社日立製作所中央研究所内

 【氏名】 若山 浩二

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都国分寺市東恋ヶ窪一丁目 2 8 0 番地
株式会社日立製作所中央研究所内

 【氏名】 坂本 健一

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都千代田区神田駿河台四丁目 6 番地
株式会社日立製作所内

 【氏名】 相本 毅

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県秦野市堀山下 1 番地
株式会社日立製作所エンタープライズサーバ事業部内

 【氏名】 宮本 貴久

【特許出願人】

 【識別番号】 000005108

 【氏名又は名称】 株式会社日立製作所

【代理人】

 【識別番号】 100075096

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 作田 康夫

 【電話番号】 03-3212-1111

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013088

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 パケット転送装置、パケット転送制御方法、及びパケット転送装置の設定方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

マルチ・プロトコル・ラベル・スイッチング（以下、「MPLS」という。）を用いるMPLSネットワークと、前記MPLSプロトコルを用いないネットワークとをインタワークするパケット転送装置であって、

前記MPLSネットワーク内では、OSI（オープン・システム・インターコネクション）モデルのレイヤ3に相当するレイヤのヘッダ（以下、「レイヤ3ヘッダ」という。）の前に付与されるMPLSヘッダによりパケットのスイッチングが行われ、前記MPLSプロトコルを用いないネットワーク内では、前記レイヤ3ヘッダの前に付与される、前記MPLSヘッダとは異なるOSIモデルのレイヤ2に相当するレイヤのヘッダ（以下、「レイヤ2ヘッダ」という。）によりパケットのスイッチングが行われ、

前記装置は、

前記MPLSプロトコルを用いないネットワークから送信されるパケットを受信する第1の物理ポートと、

前記MPLSネットワークと接続するための第2の物理ポートと、

前記レイヤ2ヘッダの情報と、前記レイヤ3ヘッダの情報との組と、前記MPLSヘッダの情報との対応関係を示すヘッダ変換情報を保持するメモリと、

上記ヘッダ変換情報を検索し、前記第1の物理ポートから受信したパケットが有する前記レイヤ2ヘッダを、それに対応する前記MPLSヘッダに変換する処理部、

とを有することを特徴とするパケット転送装置。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のパケット転送装置であって、

前記レイヤ2ヘッダの情報は、前記MPLSプロトコルを用いないネットワークから送信されるパケットの送信元及び宛先が属するグループを識別する情報で

あり、前記MPLSヘッダの情報は前記MPLSヘッダ内のラベルの値であることを特徴とするパケット転送装置。

【請求項3】

請求項2に記載のパケット転送装置において、

前記第1の物理ポートには物理ポート番号が割り当てられており、

前記ヘッダ変換情報は、前記物理ポート番号と、前記MPLSプロトコルを用いないネットワークから送信されるパケットの送信元及び宛先が属するグループを識別する情報と、前記レイヤ3ヘッダの情報との組と、前記ラベルの値との対応関係を示すことを特徴とするパケット転送装置。

【請求項4】

請求項1に記載のパケット転送装置において、

前記レイヤ2ヘッダ及び前記MPLSヘッダはそれぞれパケットの優先度情報を含み、前記MPLSネットワーク内で転送されるパケット及び前記MPLSプロトコルを用いないネットワーク内で転送されるパケットは、前記レイヤ3ヘッダの後にOSIモデルのレイヤ4に相当するレイヤのヘッダ（以下、「レイヤ4ヘッダ」という。）を有し、

上記装置は、

前記レイヤ2ヘッダ内のパケットの前記優先度情報と、前記レイヤ3ヘッダの情報又は前記レイヤ4ヘッダの情報の何れか一方との組と、前記MPLSヘッダ内の前記優先度情報との対応関係、又は前記レイヤ2ヘッダ内のパケットの優先度情報と、前記レイヤ3ヘッダの情報と、前記レイヤ4ヘッダの情報との組と、前記MPLSヘッダ内の前記優先度情報との対応関係の何れか一方を示す優先度変換情報を保持するメモリを有し、

前記処理部は、前記優先度変換情報を検索し、前記第1の物理ポートから受信したパケットが有する前記レイヤ2ヘッダ内の前記優先度情報を、それに対応する前記MPLSヘッダ内の前記優先度情報に変換することを特徴とするパケット転送装置。

【請求項5】

マルチ・プロトコル・ラベル・スイッチング（以下、「MPLS」という。）

を用いるMPLSネットワークと、前記MPLSプロトコルを用いないネットワークとをインタワークするパケット転送装置であって、

前記MPLSネットワーク内では、OSI（オープン・システム・インターコネクション）モデルのレイヤ3に相当するレイヤのヘッダ（以下、「レイヤ3ヘッダ」という。）の前に付与されるMPLSヘッダによりパケットのスイッチングが行われ、前記MPLSプロトコルを用いないネットワーク内では、OSIモデルのレイヤ3に相当するレイヤのヘッダ（以下、「レイヤ3ヘッダ」という。）の前に付与される前記MPLSヘッダとは異なるOSIモデルのレイヤ2に相当するレイヤのヘッダ（以下、「レイヤ2ヘッダ」という。）によりパケットのスイッチングが行われ、

前記装置は、

前記MPLSネットワークから送信されるパケットを受信する第1の物理ポートと、

前記MPLSプロトコルを用いないネットワークと接続するための第2の物理ポートと、

前記MPLSヘッダの情報と、前記レイヤ3ヘッダの情報との組と、前記レイヤ2ヘッダの情報との対応関係を示すヘッダ変換情報を保持するメモリと、

上記ヘッダ変換情報を検索し、前記第1の物理ポートから受信したパケットが有する前記レイヤ2ヘッダを、それに対応する前記MPLSヘッダに変換する処理部、

とを有することを特徴とするパケット転送装置。

【請求項6】

請求項5に記載のパケット転送装置であって、

前記MPLSヘッダの情報は前記MPLSヘッダ内のラベルの値であり、前記前記レイヤ2ヘッダの情報は、前記MPLSプロトコルを用いないネットワークから送信されるパケットの送信元及び宛先が属するグループを識別する情報であることを特徴とするパケット転送装置。

【請求項7】

請求項6に記載のパケット転送装置において、

前記第 1 の物理ポートには物理ポート番号が割り当てられており、

前記ヘッダ変換情報は、前記物理ポート番号と、前記ラベルの値と、前記レイヤ 3 ヘッダの情報との組と、前記 M P L S プロトコルを用いないネットワークから送信されるパケットの送信元及び宛先が属するグループを識別する情報との対応関係を示すことを特徴とするパケット転送装置。

【請求項 8】

請求項 5 に記載のパケット転送装置において、

前記レイヤ 2 ヘッダ及び前記 M P L S ヘッダはそれぞれパケットの優先度情報を含み、前記 M P L S ネットワーク内で転送されるパケット及び前記 M P L S プロトコルを用いないネットワーク内で転送されるパケットは、前記レイヤ 3 ヘッダの後に O S I モデルのレイヤ 4 に相当するレイヤのヘッダ（以下、「レイヤ 4 ヘッダ」という。）を有し、

上記装置は、

前記 M P L S ヘッダ内のパケットの前記優先度情報と、前記レイヤ 3 ヘッダの情報又は前記レイヤ 4 ヘッダの情報の何れか一方との組と、前記レイヤ 2 ヘッダ内の前記優先度情報との対応関係、又は前記 M P L S ヘッダ内のパケットの前記優先度情報と、前記レイヤ 3 ヘッダの情報と、前記レイヤ 4 ヘッダの情報との組と、前記レイヤ 2 ヘッダ内の前記優先度情報との対応関係の何れか一方を示す優先度変換情報を保持するメモリを有し、

前記処理部は、前記優先度変換情報を検索し、前記第 1 の物理ポートから受信したパケットが有する前記 M P L S ヘッダ内の前記優先度情報を、それに対応する前記レイヤ 2 ヘッダ内の前記優先度情報に変換することを特徴とするパケット転送装置。

【請求項 9】

請求項 4 又は請求項 8 の何れかに記載のパケット転送装置において、

前記 M P L S ヘッダはシムヘッダであり、前記 M P L S ネットワークで使用される優先度情報は、前記シムヘッダ内に定義される 3 ビットの E x p フィールドに設定されることを特徴とするパケット転送装置。

【請求項 1 0】

請求項 4 又は請求項 8 の何れかに記載の packets 転送装置において、

前記 MPLS ヘッダは ATM セルヘッダであり、前記 MPLS ネットワークで使用される優先度情報は、前記 ATM セルヘッダ内に定義されるセル廃棄優先度ビット (CLP) フィールドに設定されることを特徴とする packets 転送装置。

【請求項 1 1】

請求項 2、請求項 3、請求項 6 又は請求項 7 の何れかに記載の packets 転送装置であって、

前記 レイヤ 2 ヘッダには IEEE 802.1Q で定義されるタグ制御情報フィールドが設定されており、前記 MPLS プロトコルを用いないネットワークから送信される packets の送信元及び宛先が属するグループを識別する情報は、前記タグ制御情報フィールド内に設定される VLAN ID であることを特徴とする packets 転送装置。

【請求項 1 2】

請求項 2、請求項 3、請求項 6 又は請求項 7 の何れかに記載の packets 転送装置であって、

前記 レイヤ 2 ヘッダには IEEE 802.1Q で定義されるタグ制御情報フィールドが設定されており、前記 レイヤ 2 ヘッダ内の packets の優先度情報は、前記タグ制御情報フィールド内に設定されるユーザプライオリティであることを特徴とする packets 転送装置。

【請求項 1 3】

マルチ・プロトコル・ラベル・スイッチング (以下、「MPLS」という。)を用いる MPLS ネットワークと、前記 MPLS プロトコルを用いないネットワークとをインタワークする packets 転送装置における packets 転送制御方法であって、

前記 MPLS ネットワーク内では、OSI (オープン・システム・インターコネクション) モデルのレイヤ 3 に相当するレイヤのヘッダ (以下、「レイヤ 3 ヘッダ」という。)の前に付与される MPLS ヘッダ内のラベルにより packets のスイッチングが行われ、前記 MPLS プロトコルを用いないネットワーク内では

、前記レイヤ3ヘッダの前に付与される、前記MPLSヘッダとは異なるOSIモデルのレイヤ2に相当するレイヤのヘッダ（以下、「レイヤ2ヘッダ」という。）によりパケットのスイッチングが行われ、前記MPLSプロトコルを用いないネットワーク内には、前記レイヤ2ヘッダの識別子により識別される、複数の論理的なネットワークが構成され、

前記方法は、

前記識別子と前記ラベルとの対応関係を前記パケット装置に設定し、

前記MPLSプロトコルを用いないネットワークからパケットを受信すると、その受信パケットに付与されている前記レイヤ2ヘッダ内の前記識別子により、その受信パケットが前記複数の論理的なネットワークの内、何れのネットワークに属するものかを判断し、

前記対応関係を調べ、前記受信パケットに付与する前記ラベルを決定し、

前記MPLSネットワークからパケットを受信すると、前記対応関係を調べ、前記MPLSネットワークから前記受信パケットに付与されている前記ラベルに対応する前記識別子を決定し、前記MPLSネットワークから前記受信パケットを、前記複数の論理的なネットワークの内、何れのネットワークに送信するかを判断する、

ステップを有することを特徴とするパケット転送制御方法。

【請求項14】

請求項13に記載のパケット転送制御方法であって、

前記レイヤ2ヘッダはIEEE802.1Qにより定義されるVLANのパケットヘッダであり、前記識別子はVLAN_IDフィールドに設定される値であり、前記レイヤ3ヘッダは、インターネット・プロトコル（IP）ヘッダであることを特徴とするパケット転送制御方法。

【請求項15】

請求項13に記載のパケット転送制御方法であって、

前記レイヤ2ヘッダは前記MPLSプロトコルを用いないネットワーク内におけるパケット転送の優先度情報を含んでおり、及び前記MPLSヘッダは前記MPLSネットワーク内におけるパケット転送の優先度情報を含んでおり、

前記方法は、前記レイヤ 2 ヘッダ内の前記優先度情報を前記 M P L S ヘッダ内の前記優先度情報に変換するステップを有することを特徴とするパケット転送制御方法。

【請求項 1 6】

請求項 1 5 に記載のパケット転送制御方法であって、

前記レイヤ 2 ヘッダは I E E E 8 0 2 . 1 Q により定義される V L A N のパケットヘッダであり、前記レイヤ 2 ヘッダ内の前記優先度情報はユーザプライオリティフィールドに設定される値であり、前記 M P L S ヘッダはシムヘッダであり、前記 M P L S ヘッダ内の優先度情報は、3 ビットの E x p フィールドの値であることを特徴とするパケット転送制御方法。

【請求項 1 7】

請求項 1 5 に記載のパケット転送制御方法であって、

前記レイヤ 2 ヘッダは I E E E 8 0 2 . 1 Q により定義される V L A N のパケットヘッダであり、前記レイヤ 2 ヘッダ内の前記優先度情報はユーザプライオリティフィールドに設定される値であり、前記 M P L S ヘッダは A T M セルヘッダであり、前記 M P L S ヘッダ内の優先度情報は、セル廃棄優先度ビット (C L P) フィールドの値であることを特徴とするパケット転送制御方法。

【請求項 1 8】

請求項 1 6 又は請求項 1 7 の何れかに記載のパケット転送制御方法であって、

前記レイヤ 3 ヘッダは、インターネット・プロトコル (I P) ヘッダであることを特徴とするパケット転送制御方法。

【請求項 1 9】

マルチ・プロトコル・ラベル・スイッチング (以下、「M P L S」という。) ヘッダによりパケットのスイッチングが行われる M P L S ネットワークと、 I E E E 8 0 2 . 1 Q により定義される V L A N パケットヘッダによりパケットのスイッチング行われるネットワークとをインタワークするパケット転送装置の設定方法であって、

前記 M P L S ヘッダは、前記 M P L S ネットワークのコネクション識別子であるラベルと、前記 M P L S ネットワーク内におけるパケット転送の優先度情報と

を有し、

前記方法は、

前記 V L A N パケットヘッダ内の V L A N _ I D フィールドに設定される値と、前記 M P L S ヘッダ内のラベルとの対応関係を設定し、

前記 V L A N パケットヘッダ内のユーザプライオリティフィールドに設定される値と、前記 M P L S ヘッダ内の前記優先度情報との対応関係を設定する、ステップを有することを特徴とするパケット転送装置の設定方法。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、パケット通信装置にかかり、特に仮想専用網（V P N : Virtual Private Network）をインタワークする装置に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

企業内のイントラネットを構築する手段の一つとして、V L A N (Virtual Local Area Network) がある。V L A N の方式は、アメリカの I E E E 8 0 2 委員会において、I E E E 8 0 2 . 1 Q として標準化されている。

【 0 0 0 3 】

図 2 に、I E E E 8 0 2 . 1 Q による V L A N のパケットフォーマットを示す。I E E E 8 0 2 . 1 Q による V L A N において、I P (Internet Protocol) パケット 5 0 0 は、タグ制御情報 5 1 4 が付与された E t h e r n e t フレーム 5 1 0 として転送される。タグ制御情報 5 1 4 には 1 2 ビットの V L A N I D 5 1 4 - 3 が設定される。V L A N I D は V L A N を構成するグループの識別子である。3 ビットのユーザプライオリティ 5 1 4 - 1 は、パケットの優先度を示す。

【 0 0 0 4 】

図 3 に、V L A N のネットワーク構成例を示す。図 3 では、ネットワークが、建物の 1 階と 2 階のように、地理的に 2 カ所の場所 6 - 1、6 - 2 にまたがっているものとする。場所 6 - 1 には、2 つのネットワーク、V L A N # A (7 -

1-1)、VLAN #B (7-2-1) が存在する。場所 6-2 にも、2つのネットワーク、VLAN #A (7-1-2)、VLAN #B (7-2-2) が存在する。VLAN #A (7-1-1)、VLAN #B (7-2-1) は、スイッチングハブ 2-1 により多重される。同様に、VLAN #A (7-1-2)、VLAN #B (7-2-2) はスイッチングハブ 2-2 により多重される。VLAN #A と VLAN #B にはそれぞれ固有の VLAN ID が割り当てられている。スイッチングハブ 2-1、2-2 は、VLAN ID を見て、パケットが所属する VLAN を認識する。例えば、VLAN #A 7-1-1 が場所 6-2 に向けて送信するパケットは、スイッチングハブ 2-2 により、VLAN #A 7-1-2 に対してのみ転送される。

【0005】

一方、インターネットにおけるパケットの転送技術として、MPLS (Multiprotocol Label Switching) がある。MPLS では、ネットワーク内のパケット転送装置は、ラベルと呼ばれる固定長のコネクション識別子を用いてパケット転送処理を行う。

【0006】

図 7 に、MPLS のネットワーク構成例を示す。端末 4-A から端末 4-C へパケットを転送する場合について説明する。MPLS 網の入口となる装置 3-1 では、パケットに設定された宛先 IP アドレスから、パケットの出力先とパケットに付与するラベルの値を決定する。パケットを中継する装置 3-2 では、入力パケットに付与されたラベルにより、パケットの出力先と出力パケットに付与するラベルの値を決定する。MPLS 網の出口となる装置 3-3 は、パケットからラベルを外し、パケットに設定された IP ヘッダを見てパケットの転送先を決定する。MPLS のプロトコルについては、IETF (Internet Engineering Task Force) において、標準化作業が進められている。

【0007】

図 4 に、下位レイヤとして PPP (Point to Point Protocol) を使用する MPLS のパケットフォーマットを示す。PPP を使用する MPLS では、PPP ヘッダ 521 と IP ヘッダ 501 の間に、4 バイトのシム (Shim) ヘッダ 522

が挿入される。シムヘッダは、20ビットのラベル521-1、3ビットのExpフィールド521-2、1ビットのSビット521-3、8ビットのTTL (Time to Live) フィールドを持つ。IETFでは、Expフィールド521-2を、QoS (Quality of Service) クラスとして使用することを検討している。

【0008】

図5に、下位レイヤとしてATM (Asynchronous Transfer Mode) を使用するMPLSのパケットフォーマットを示す。IPパケット500には、パディング535-1及びトレイラ535-2が付与され、AAL5フレーム535になる(IETFのRFC2684で定義されるnull encapsulation)。AAL5フレーム535は、48バイトずつに分割され、それぞれにセルヘッダ531が付与され、ATMセル530-1から530-nになる。

【0009】

図6に、ATMのセルフォーマットを示す。ATMを使用するMPLSでは、セルヘッダ531のVPI (Virtual Path Identifier) 531-2、VCI (Virtual Channel Identifier) 531-3の設定値をラベルとして使用する。また、1ビットのCLP (Cell Loss Priority) ビット531-5は、セル廃棄の優先度を表すものである。

【0010】

以下では、ラベルの値が設定されているシムヘッダまたは、ATMセルヘッダをMPLSヘッダと呼ぶことにする。

【0011】

【発明が解決しようとする課題】

従来、同一企業内で地理的に離れた拠点間の通信は、一般的には、専用線により行っていた。しかし、近年では、インターネットを使用した仮想専用線網 (VPN: Virtual Private Network) を構築することにより、拠点間を接続するユーザが増えている。

【0012】

地理的に離れた拠点に存在するVLANどうしをMPLS網によって接続する場合、MPLS網の入口に位置する装置がタグ制御情報を削除する。このため、

パケットがどのVLANに所属するものであるかを示す情報（VLAN ID）が、転送するパケットから失われる。したがって、MPLS網の出口に位置する装置は、出力するパケットに対してVLAN IDを設定できないという問題がある。

【0013】

また、パケットからタグ制御情報が削除されるため、パケットの優先度情報（ユーザプライオリティ）が失われる。したがって、パケットを送出する側のVLANと、パケットを受信する側のVLANでは、パケット送信側と同じQoS制御を行えないという問題がある。

【0014】

要するに、従来、OSIモデルのレイヤ2に相当するレイヤのヘッダ内に記されている情報を、MPLSヘッダにマッピングすることが検討されていなかった。

【0015】

そこで、本発明の目的は、OSIモデルのレイヤ2に相当するレイヤのヘッダ内に記されている情報を、MPLSヘッダにマッピングできるようにすることである。

【0016】

本発明の目的は、地理的に離れた位置に存在する、同一グループに属するVLAN同士を、閉域性を維持しながら、MPLS網を用いて接続することにある。

【0017】

また、本発明の他の目的は、MPLS網によってVLAN網をインタワークした場合においても、エンドーエンドで統一したQoS制御を行うことにある。

【0018】

【課題を解決するための手段】

本発明では、MPLSネットワークと、MPLSプロトコルを用いないネットワークとをインタワークするパケット転送装置に、MPLSプロトコルを用いないネットワークで使用されるパケットヘッダであって、OSIモデルのレイヤ3に相当するレイヤのヘッダ（以下、「レイヤ3ヘッダ」という。）の前に付与さ

れる、MPLSヘッダとは異なるOSIモデルのレイヤ2に相当するレイヤのヘッダ（以下、「レイヤ2ヘッダ」という。）の情報と、前記レイヤ3ヘッダの情報との組と、前記MPLSヘッダの情報との対応関係を示すヘッダ変換情報を設定する。パケット転送装置は、この情報を用いることにより、前記レイヤ2ヘッダをMPLSヘッダに変換する。

【0019】

また、パケット転送装置に、前記MPLSヘッダの情報と、前記レイヤ3ヘッダの情報との組と、前記レイヤ2ヘッダの情報との対応関係を示すヘッダ変換情報を設定する。パケット転送装置は、この情報を用いることにより、MPLSヘッダを前記レイヤ2ヘッダに変換する。

【0020】

本発明の一実施例では、VLANとMPLSをインタワークする装置において、VLAN IDとMPLSラベルとを対応付ける。VLAN網からMPLS網へインタワークする装置では、VLAN IDとパケットのヘッダ情報の組から出力のMPLSラベルを決定する。出力のMPLSラベルは、VLAN毎に独立した値を割り当てる。MPLS網からVLAN網へインタワークする装置では、入力MPLSラベルをVLAN IDに対応付ける。

【0021】

本発明の他の実施例では、VLANとMPLSをインタワークする装置は、タグ制御情報のユーザプライオリティ3ビットをMPLSのヘッダのQoS値を設定するフィールドに対応付ける。PPPによるMPLSの場合には、ユーザプライオリティ3ビットをShimヘッダのExpフィールド3ビットにマッピングする。ATMによるMPLSの場合には、ユーザプライオリティ3ビットをセルヘッダのCLPビット1ビットに変換する。

【0022】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施形態を図面を用いて説明する。

【0023】

図1は本発明を適用するネットワークの構成例を示すものである。VLAN

#Aはネットワーク7-1-1、7-1-2、7-1-3、7-1-4及び7-1-5から構成される。また、VLAN #Bはネットワーク7-2-1、7-2-2、7-2-3、7-2-4及び7-2-5から構成される。場所6-1、6-2、6-3、6-4及び6-5との間は、MPLS網5によって相互に接続される。MPLS網5は、ネットワークインタワーク装置1-1、1-2及び1-3と、パケット中継装置3により構成されている。

【0024】

以下では、VLAN #A 7-1-1から、ネットワークインタワーク装置1-1、1-2を経由し、VLAN #A 7-1-4へのパケット転送を例に説明する。

【0025】

図8は、本発明のネットワークインタワーク装置（1-1、1-2、1-3）の構成例を示す。ネットワークインタワーク装置は、Ethernet下位レイヤ処理部11、パケットレイヤ処理部12、MPLS下位レイヤ処理部13、スイッチ14、制御部15とを有する。

【0026】

Ethernet下位レイヤ処理部11は、Ethernetフレームを受信すると、そのフレームの物理レイヤ、およびデータリンクレイヤの終端処理を行い、IPパケットとタグ制御情報をパケットレイヤ処理部12に渡す。また、Ethernet下位レイヤ処理部11は、パケットレイヤ処理部12が決定した宛先MACアドレス及びタグ制御情報をIPパケットに付与し、IPパケットをEthernetフレーム化してVLAN網に送出する。

【0027】

MPLS下位レイヤ処理部13は、MPLSパケットを受信すると、そのパケットの物理レイヤ、およびMPLSヘッダの終端処理を行い、IPパケットとMPLSヘッダ情報をパケットレイヤ処理部12に渡す。また、パケットレイヤ処理部12が決定したMPLSヘッダ情報をIPパケットに付与し、IPパケットをMPLSパケット化してMPLS網に送出する。

【0028】

パケットレイヤ処理部12は、入力パケットのIPヘッダ情報及びタグ制御情報又はMPLSヘッダ情報に基づき、パケットの転送先を決定する。

【0029】

スイッチ14は、パケットレイヤ処理部12から送出されたパケットを、そのパケットレイヤ処理部12が定め転送先に対応する他のパケットレイヤ処理部12に送信する。

【0030】

制御部15は、管理装置と接続され、ネットワークインタワーク装置1の各処理部の制御を行う。

【0031】

図9はVLAN側回線に位置するEthernet下位レイヤ処理部11の構成を示すものである。

【0032】

物理レイヤ受信処理部111は受信Ethernetフレームの物理レイヤ処理を行う。Ethernet受信処理部112は、受信したEthernetの終端処理を行う。すなわち、受信フレームの宛先MACアドレスから、自宛以外のフレームを廃棄し、また、自宛の受信フレームのタグ制御情報を取り出す処理を行う。パケットレイヤ処理部インタフェース113および114は、パケットレイヤ処理部12とのインタフェースである。Ethernet送信処理部115はMACアドレスやタグ制御情報の付与等、IPパケットをEthernetフレーム化する処理を行う。物理レイヤ送信処理部116はEthernetフレームを物理回線から送出する処理を行う。制御部インタフェース117は制御部15とのインタフェースであり、下位レイヤ処理部11の各構成要素と接続する。

【0033】

図10はパケットレイヤ処理部12の構成を示すものである。下位レイヤ処理部インタフェース121、126はEthernet下位レイヤ処理部11、またはMPLS下位レイヤ処理部とのインタフェースである。テーブル検索処理部

1 2 2 は、検索テーブル 1 2 3 を検索して、出力パケットに付与する出力物理ポート及び V L A N I D または M P L S ラベルを取得する処理を行う。スイッチインタフェース 1 2 4、1 2 5 はスイッチ 1 4 とのインタフェースである。制御部インタフェース 1 2 7 は制御部 1 5 とのインタフェースであり、パケット処理部 1 2 の各構成要素と接続する。

【 0 0 3 4 】

図 1 2 は、検索テーブル 1 2 3 の構成例を示す。検索テーブル 1 2 3 は、V L A N I D 検索テーブル 1 2 3 - 1、M P L S 出力用経路検索テーブル 1 2 3 - 2、M P L S ラベル検索テーブル 1 2 3 - 3、V L A N 出力用経路検索テーブル 1 2 3 - 4、M P L S 出力用 Q o S 変換テーブル 1 2 3 - 5、V L A N 出力用 Q o S 変換テーブル 1 2 3 - 6 を有する。これらの検索テーブルは、メモリ上に構築される。全ての検索テーブルが同一のメモリ上に構築される必要はない。

【 0 0 3 5 】

V L A N I D 検索テーブル 1 2 3 - 1 は、V L A N I D を検索キーし、どの V L A N に所属するかを判定するためのテーブルである。M P L S 出力用経路検索テーブル 1 2 3 - 2 は、V L A N 網から M P L S 網への入口において出力ラベルを決定するためのテーブルである。M P L S ラベル検索テーブル 1 2 3 - 3 は、M P L S ラベルを検索キーとし、どの V L A N に所属するかを判定するためのテーブルである。V L A N 出力用経路検索テーブル 1 2 3 - 4 は、M P L S 網から V L A N 網への出口において出力 V L A N I D を決定するためのテーブルである。M P L S 出力用 Q o S 変換テーブル 1 2 3 - 5 は、V L A N 網の Q o S 値（ユーザプライオリティ）を M P L S 網の Q o S 値へ変換するためのテーブルである。V L A N 出力用 Q o S 変換テーブル 1 2 3 - 6 は、M P L S 網の Q o S 値を V L A N 網の Q o S 値（ユーザプライオリティ）へ変換するためのテーブルである。

【 0 0 3 6 】

図 1 1 は M P L S 下位レイヤ処理部 1 3 の構成を示すものである。物理レイヤ受信処理部 1 3 1 は受信パケットの物理レイヤ処理を行う。M P L S 受信処理部 1 3 2 は、データリンクレイヤの終端、および M P L S ヘッダを取り出す処理を

行う。パケットレイヤ処理部インタフェース 1 3 3、1 3 4 はパケットレイヤ処理部 1 2 とのインタフェースである。M P L S 送信処理部 1 3 5 は、データリンクレイヤの終端、および M P L S ヘッダを I P パケットに付与する処理を行う。物理レイヤ送信処理部 1 3 6 は M P L S ラベルが付与されたパケットを物理回線から送出する。制御部インタフェース 1 3 7 は制御部 1 5 とのインタフェースであり、下位レイヤ処理部 1 3 の各構成要素と接続する。

【 0 0 3 7 】

ネットワークインタワーク装置 1 が V L A N I D と M P L S ラベルを対応付けるための処理手順を説明する。

【 0 0 3 8 】

図 1 におけるネットワークインタワーク装置 1 - 1 が入力 V L A N I D から出力ラベルを取得する処理手順を説明する。

【 0 0 3 9 】

ネットワークインタワーク装置 1 - 1 では、テーブル検索処理部 1 2 2 が検索テーブル 1 2 3 を検索する。

【 0 0 4 0 】

図 1 9 は、ネットワークインタワーク装置 1 - 1 におけるテーブル検索処理部 1 2 2 の検索手順の概念を示すものである。テーブル検索処理部 1 2 2 は、最初に V L A N I D 検索テーブル 1 2 3 - 1 を検索し、次に M P L S 出力用経路検索テーブル 1 2 3 - 2 を検索する。

【 0 0 4 1 】

図 1 3 は V L A N I D 検索テーブルの構成例を示すものである。V L A N I D 検索テーブル 1 2 3 - 1 には、検索キーとして入力 V L A N I D 1 2 3 - 1 - 1、および検索結果として V L A N I D に対応する V L A N 名 1 2 3 - 1 - 2 が設定される。図 1 3 の例では、入力 V L A N I D の値 10 で V L A N I D 検索テーブル 1 2 3 - 1 を検索すると、結果は、V L A N # A となる。検索キーとして、入力 V L A N I D と、パケットの入力物理ポートの組合せを用いることも可能である。検索キーとして、入力 V L A N I D と、パケットの入力物理ポートとの組合せを用いる場合には、図 8 で示す下位レイヤ処理部 1 1 に、複数

の物理ポートが存在する構成において、異なる入力物理ポート間で、同じVLAN IDの値を使用することが可能となる。

【 0 0 4 2 】

図 1 4 はMPLS 出力用経路検索テーブルの構成例を示すものである。MPLS 出力用経路検索テーブル 1 2 3 - 2 には、検索キーとして宛先IPアドレス 1 2 3 - 2 - 1、検索結果として出力ラベル 1 2 3 - 2 - 2、および出力物理ポート 1 2 3 - 2 - 3 が設定される。MPLS 出力用経路検索テーブル 1 2 3 - 2 はVLAN 毎にエントリが分割されている。図 1 3 に示されている例では、MPLS 出力用経路検索テーブル 1 2 3 - 2 は、VLAN # A 用のエントリ 1 2 3 - 2 - a とVLAN # B 用のエントリ 1 2 3 - 2 - b に分割されている。

【 0 0 4 3 】

VLAN ID 検索テーブル 1 2 3 - 1 の検索結果がVLAN # A である場合、MPLS 出力用経路検索テーブル 1 2 3 - 2 のエントリ 1 2 3 - 2 - a 部分が検索される。図 1 4 に示されている例では、宛先IPアドレス192.169.10.0で、エントリ 1 2 3 - 2 - a を検索すると、その結果は、出力ラベルの値100、出力物理ポート3となる。

【 0 0 4 4 】

次に、図 1 におけるネットワークインタワーク装置 1 - 2 が入力ラベルから出力VLAN IDを取得する処理手順を説明する。

【 0 0 4 5 】

ネットワークインタワーク装置 1 - 2 では、テーブル検索処理部 1 2 2 が検索テーブル 1 2 3 を検索する。

【 0 0 4 6 】

図 2 0 は、ネットワークインタワーク装置 1 - 2 におけるテーブル検索処理部 1 2 2 の検索手順の概念を示すものである。テーブル検索処理部 1 2 2 は、最初にMPLS ラベル検索テーブル 1 2 3 - 1 を検索し、次にVLAN 出力用経路検索テーブル 1 2 3 - 2 を検索する。

【 0 0 4 7 】

図 1 5 は、MPLS ラベル検索テーブル 1 2 3 - 3 の構成例を示す。MPLS

ラベル検索テーブル123-3には、検索キーとして入力ラベル123-3-1が、検索結果として、入力ラベルに対応したVLAN名が設定される。図15に示されている例では、入力ラベルの値101でMPLSラベル検索テーブル123-1を検索すると、その結果は、VLAN #Aとなる。検索キーとして、入力ラベルと、パケットの入力物理ポートとの組合せを用いることも可能である。検索キーとして、入力ラベルと、パケットの入力物理ポートとの組合せを用いる場合には、図8で示す下位レイヤ処理部13に、複数の物理ポートが存在する構成において、異なる入力物理ポート間で、同じラベルの値を使用することが可能となる。

【0048】

図16はVLAN出力用経路検索テーブル123-4の構成例を示すものである。

【0049】

MPLSラベル検索テーブル123-4には、検索キーとして宛先IPアドレス123-4-1、検索結果として宛先MACアドレス123-4-2、出力VLAN ID 123-4-3及び出力物理ポート123-4-4が設定される。検索テーブル123-4はVLAN毎にエントリが分割されている。図16では、VLAN出力用経路検索テーブル123-4は、VLAN #A用のエントリ123-4-aとVLAN #B用のエントリ123-4-bとに分割されている。

【0050】

MPLSラベル検索テーブル123-3の検索結果が、VLAN #Aである場合、テーブル検索処理部122は、エントリ123-4-a部分を検索する。宛先IPアドレスが192.169.10.0の場合、エントリ123-4-aを検索すると、その結果は、出力MACアドレスの値aa.bb.cc.dd.ee.ff、出力VLAN IDの値10、出力物理ポート8となる。

【0051】

次に、エンドーエンドのQoS制御を実現するための処理手順を説明する。

【 0 0 5 2 】

図 1 7 はネットワークインタワーク装置 1 - 1 において、VLAN で規定されるユーザプライオリティを MPLS ヘッダの QoS 情報にマッピングを行うための MPLS 出力用 QoS 変換テーブル 1 2 3 - 1 0 の構成例を示す。

【 0 0 5 3 】

MPLS 出力用 QoS 変換テーブル 1 2 3 - 1 0 には、検索キーとして TCP / IP ヘッダ情報 1 2 3 - 1 0 - 1 及びユーザプライオリティ 1 2 3 - 1 0 - 2 が、検索結果として出力 MPLS ヘッダの QoS 値 1 2 3 - 1 0 - 3 が設定される。

【 0 0 5 4 】

テーブル検索処理部 1 2 2 は、入力パケットに付与された TCP / IP ヘッダ情報及びユーザプライオリティを検索キーとして MPLS 出力用 QoS 変換テーブル 1 2 3 - 1 0 を検索し、その結果として、出力 MPLS ヘッダに設定する QoS 値を取得する。TCP / IP ヘッダ情報 1 2 3 - 1 0 には、宛先 IP アドレス、IP ヘッダの TOS (Type of Service) 値、TCP ヘッダの宛先ポート番号等を使用することが可能である。図 1 7 に示す例では、TCP / IP ヘッダ情報 1 2 3 - 1 0 として宛先 IP アドレスを使用している。MPLS ヘッダの QoS 情報は、PPP を使用する MPLS では、Exp フィールド、ATM を使用する MPLS では、セルヘッダの CLP ビットと対応付けることが可能である。

【 0 0 5 5 】

図 1 8 はネットワークインタワーク装置 1 - 2 において、MPLS ヘッダの QoS 情報からユーザプライオリティへのマッピングを行うための VLAN 出力用 QoS 変換テーブル 1 2 3 - 1 1 の構成例を示す。

【 0 0 5 6 】

MPLS 出力用テーブル 1 2 3 - 1 1 には、検索キーとして TCP / IP ヘッダ情報 1 2 3 - 1 1 - 1 及び入力 MPLS QoS 値 1 2 3 - 1 1 - 2 が、検索結果としてユーザプライオリティ 1 2 3 - 1 1 - 3 が設定される。

【 0 0 5 7 】

テーブル検索処理部 1 2 2 は、入力パケットに付与された TCP / IP ヘッダ

情報、出力MPLS QoS値を検索キーとしてVLAN出力用QoS変換テーブル123-11を検索し、その結果として、出力ユーザプライオリティ値を取得する。TCP/IPヘッダ情報123-11には、宛先IPアドレス、IPヘッダのTOS値等を使用することが可能である。図18に示す例では、TCP/IPヘッダ情報123-11として宛先IPアドレスを使用している。MPLSヘッダのQoS情報は、PPPを使用するMPLSではExpフィールドと、ATMを使用するMPLSではセルヘッダのCLPフィールドと対応付けることが可能である。

【0058】

ネットワークインタワーク装置1-1におけるMPLS出力用QoS変換テーブル123-10の検索と、ネットワークインタワーク装置1-2におけるVLAN出力用QoS変換テーブル123-11の検索とを組合せることにより、同じグループに属するVLAN網同士がMPLS網によってインタワークするネットワークにおいても、VLANのQoS値を保存することが可能である。

【0059】

VLANのタグ制御情報のユーザプライオリティとシムヘッダのExpビットはいずれも3ビットであるため、VLAN網とMPLS網で同一のQoS値を使用することが可能である。このため、MPLS網における下位レイヤがPPPの場合には、必ずしも検索キーにTCP/IPヘッダを設定しなくてもよい。

【0060】

検索テーブル123の設定は、ネットワークインタワーク装置1の管理者が手動で行う方法と、またはネットワーク内の装置が自律的に情報を交換することにより、装置が自動に行う方法とがある。

【0061】

検索テーブル123をネットワークインタワーク装置1の管理者が手動設定する一例を説明する。

【0062】

ネットワークインタワーク装置1の管理者が検索テーブル123を手動設定する際には、管理者はネットワーク構成を把握した上で、ネットワークの運用方針

に基づいて検索テーブル 1 2 3 への設定値を定める。このとき、VLAN 網の運用者は、ネットワークインタワーク装置 1 の管理者に対して、地理的な離れた位置に存在する VLAN 網同士を接続するために必要な情報を通知する。その情報の一例として、接続する装置の IP アドレス情報がある。ネットワークインタワーク装置 1 の管理者は、ネットワークインタワーク装置 1 の制御部 1 5 に接続した管理装置からコマンドを入力することによって、検索テーブル 1 2 3 の設定を行う。

【 0 0 6 3 】

MPLS 出力用経路検索テーブル 1 2 3 - 2 を自動設定する例としては、ラベル配布を行うためのシグナリングプロトコルを使用する方法がある。ラベル配布プロトコルには、IETF の draft-ietf-mpls-ldp-06.txt で定義されている LDP (Label Distribution Protocol) 等がある。LDP を使用する場合には、MPLS 網 5 を構成する装置 1 - 1、1 - 2、および 3 が、互いにメッセージを交換することによって、自律的に各装置に対して、MPLS のパスで使用するラベルが割り当てられる。

【 0 0 6 4 】

VLAN 出力用検索テーブル 1 2 3 - 4 を自動設定する例としては、ルーティングプロトコルを使用する方法がある。ルーティングプロトコルは、ネットワークインタワーク装置 1 - 2、および VLAN 網 7 - 1 - 3、7 - 1 - 4 を構成する装置間で動作する。ルーティングプロトコルの例としては、IETF の RFC 2 1 7 8 として定義されている OSPF (Open Shortest Path First) 等がある。ルーティングプロトコルを使用することにより、ネットワークインタワーク装置 1 - 2 は、宛先 IP アドレス 1 2 3 - 4 - 1 と出力物理ポート 1 2 3 - 4 - 4 の対応関係、および転送先の IP アドレスを把握することができる。また、IETF の RFC 8 2 6 で定義される ARP (Address Resolution Protocol) を使用することにより、ネットワークインタワーク装置 1 - 2 は、転送先の IP アドレスと、MAC アドレス 1 2 3 - 4 - 2 の対応関係を把握できる。

【 0 0 6 5 】

【発明の効果】

本発明により、OSIモデルのレイヤ2に相当するレイヤのヘッダ内に記されている情報を、MPLSヘッダにマッピングできる。

【 0 0 6 6 】

また、本発明により、地理的に離れた位置に存在するVLAN網同士を、それらの閉域性を損なうことなく、MPLS網によりインタワークすることが可能になる。また、VLAN網間でのエンドーエンドのQoS制御を行うことが可能になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明のネットワークインタワーク装置を用いて構成したネットワークの構成例を示す図である。

【図2】

IEEE802.1QによるVLANのパケットフォーマットを示す図である。

【図3】

VLAN網の構成例を示す図である。

【図4】

PPPを用いるMPLSのフレームフォーマットを示す図である。

【図5】

ATMを用いるMPLSのフレームフォーマットを示す図である。

【図6】

ATMのセルフォーマットを示す図である。

【図7】

MPLS網の構成例を示す図である。

【図8】

本発明のネットワークインタワーク装置の構成例を示す図である。

【図 9】

本発明のネットワークインタワーク装置の下位レイヤ処理部の構成例を示す図である。

【図 1 0】

本発明のネットワークインタワーク装置のパケットレイヤ処理部の構成例を示す図である。

【図 1 1】

本発明のネットワークインタワーク装置の下位レイヤ処理部の構成例を示す図である。

【図 1 2】

本発明のネットワークインタワーク装置に設けられる検索テーブルの構成例を示す図である。

【図 1 3】

本発明のネットワークインタワーク装置に設けられる V L A N I D 検索テーブルの構成例を示す図である。

【図 1 4】

本発明のネットワークインタワーク装置に設けられる M P L S 出力用経路検索テーブルの構成例を示す図である。

【図 1 5】

本発明のネットワークインタワーク装置に設けられる M P L S ラベル検索テーブルの構成例を示す図である。

【図 1 6】

本発明のネットワークインタワーク装置に設けられる V L A N 出力用経路検索テーブルの構成例を示す図である。

【図 1 7】

本発明のネットワークインタワーク装置に設けられる M P L S 出力用 Q o S 変換テーブルの構成例を示す図である。

【図 1 8】

本発明のネットワークインタワーク装置に設けられる V L A N 出力用 Q o S 変

換テーブルの構成例を示す図である。

【図 1 9】

本発明のネットワークインタワーク装置に設けられるテーブル検索処理部の検索手順の概念を示す図である。

【図 2 0】

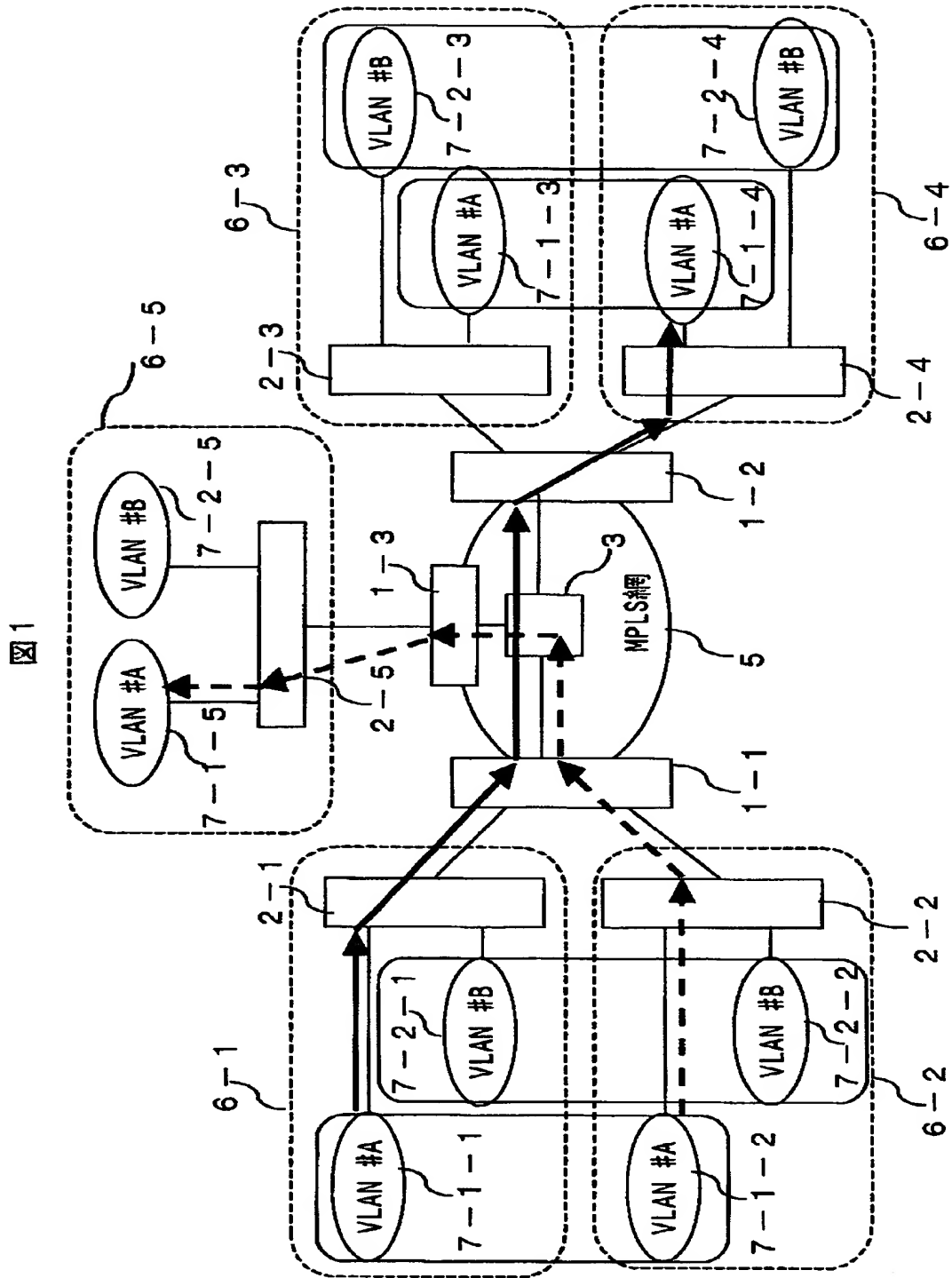
本発明のネットワークインタワーク装置に設けられるテーブル検索処理部の検索手順の概念を示す図である。

【符号の説明】

1 ネットワークインタワーク装置、11 Ethernet 下位レイヤ処理部、12 パケットレイヤ処理部、13 MPLS 下位レイヤ処理部、14 スイッチ、15 制御部、500 IP パケット、510 VLAN フレーム、520 PPP による MPLS フレーム、530 ATM セル。

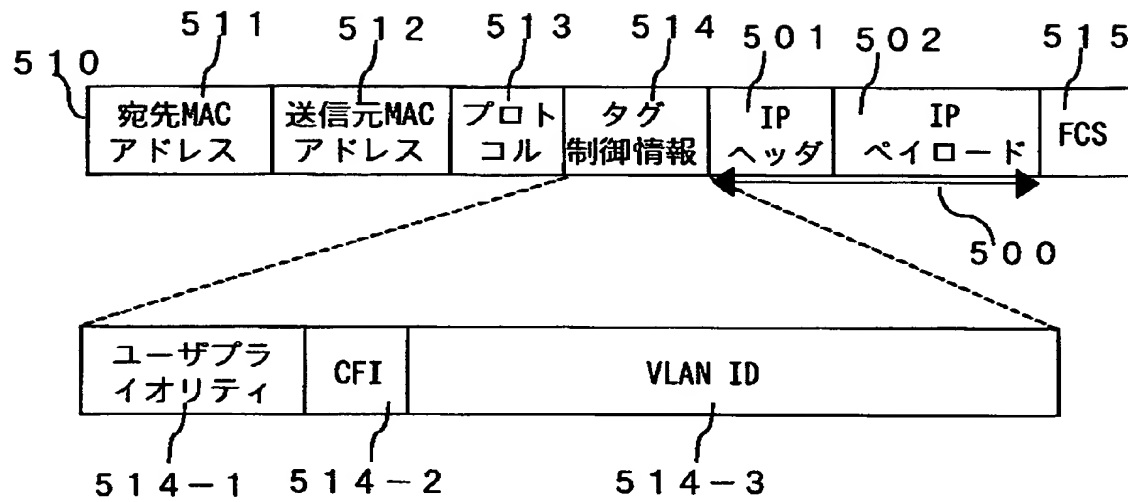
【書類名】 図面

【図 1】



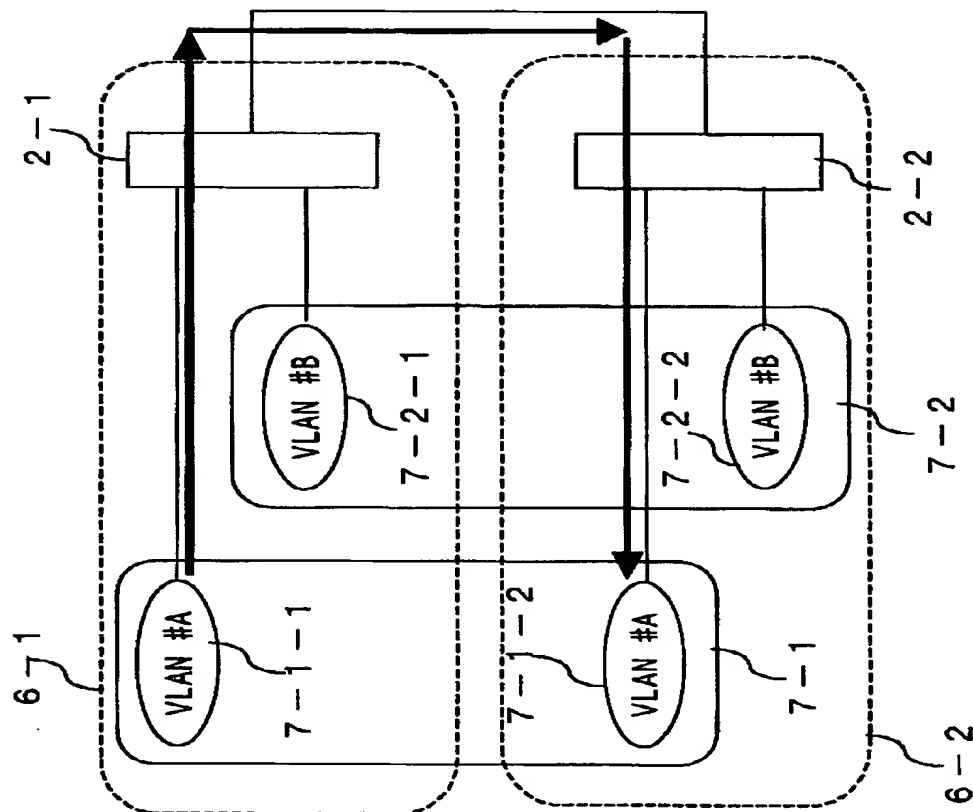
【図 2】

図 2



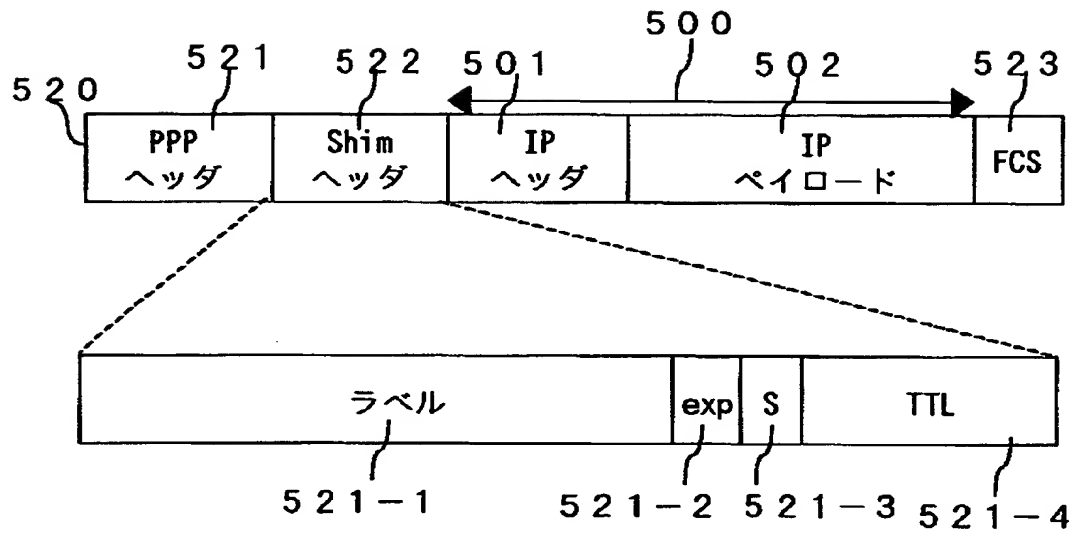
【図 3】

図 3



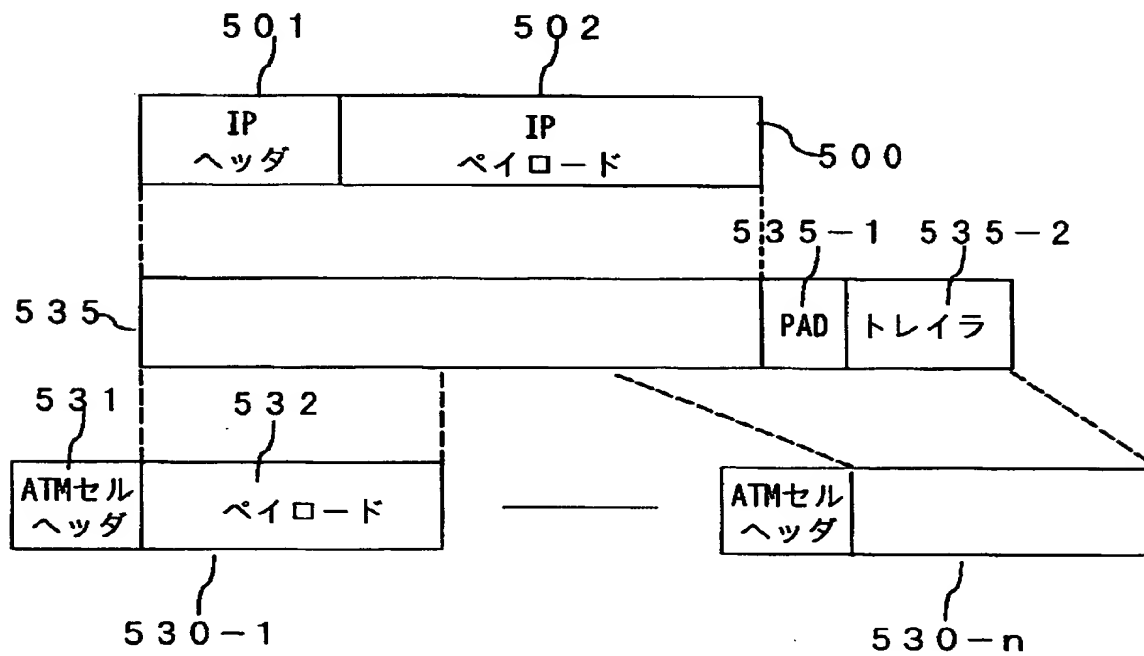
【図4】

図4



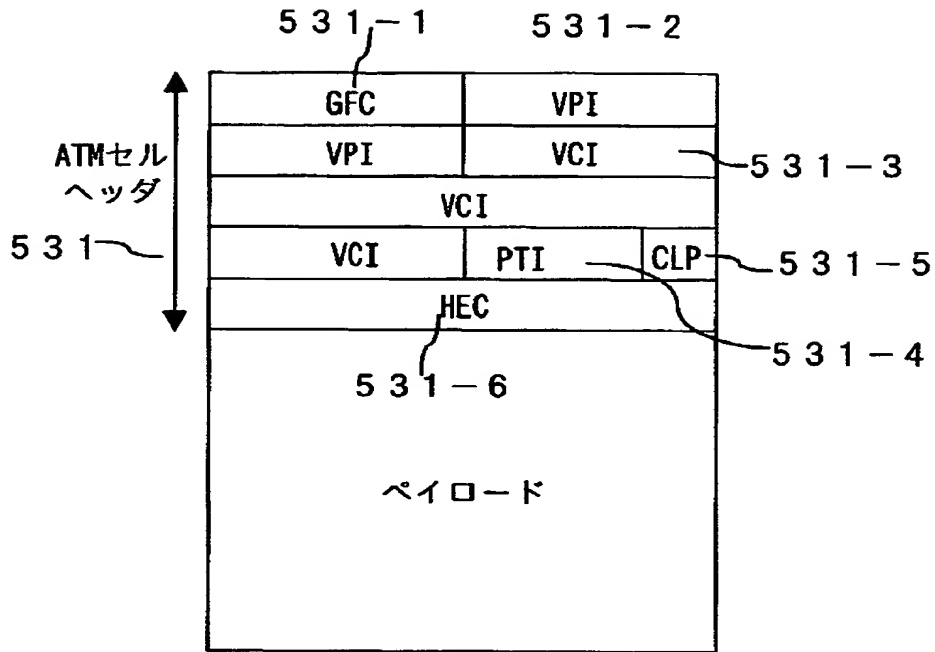
【図5】

図5

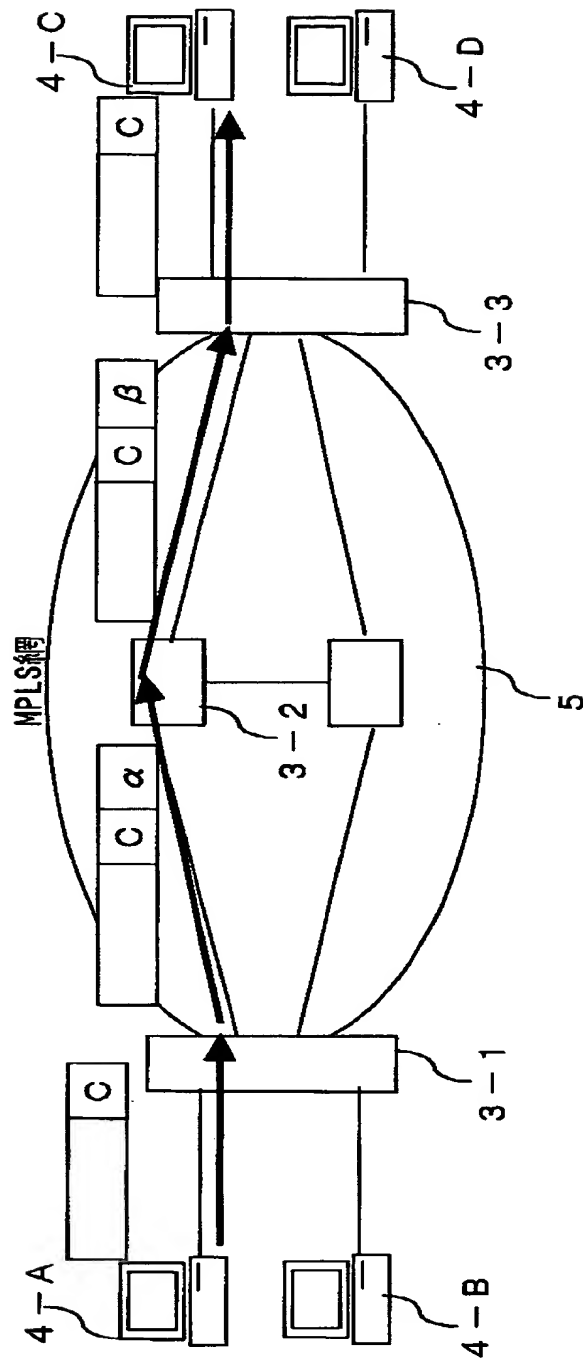


【図 6】

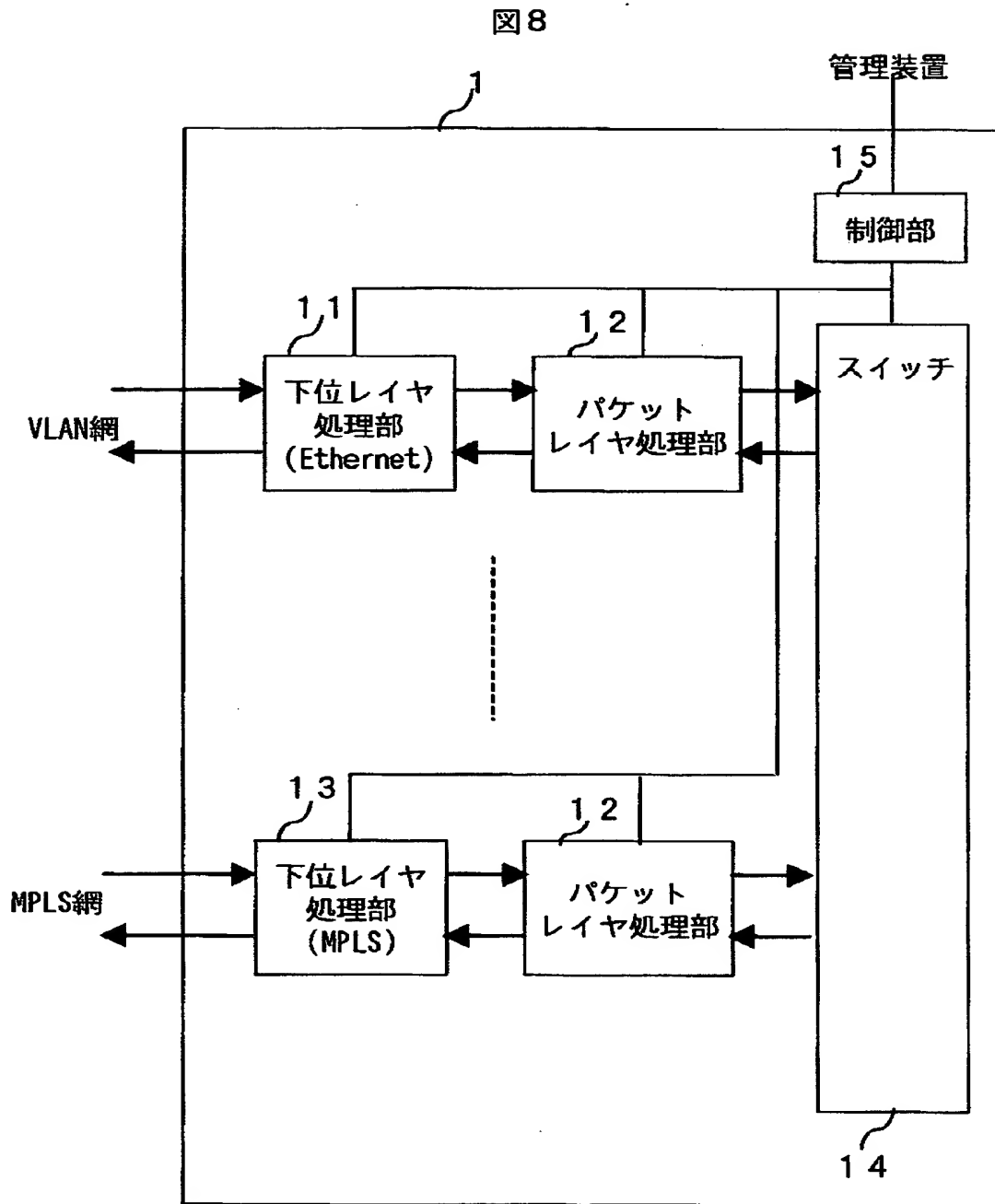
図 6



【图 7】

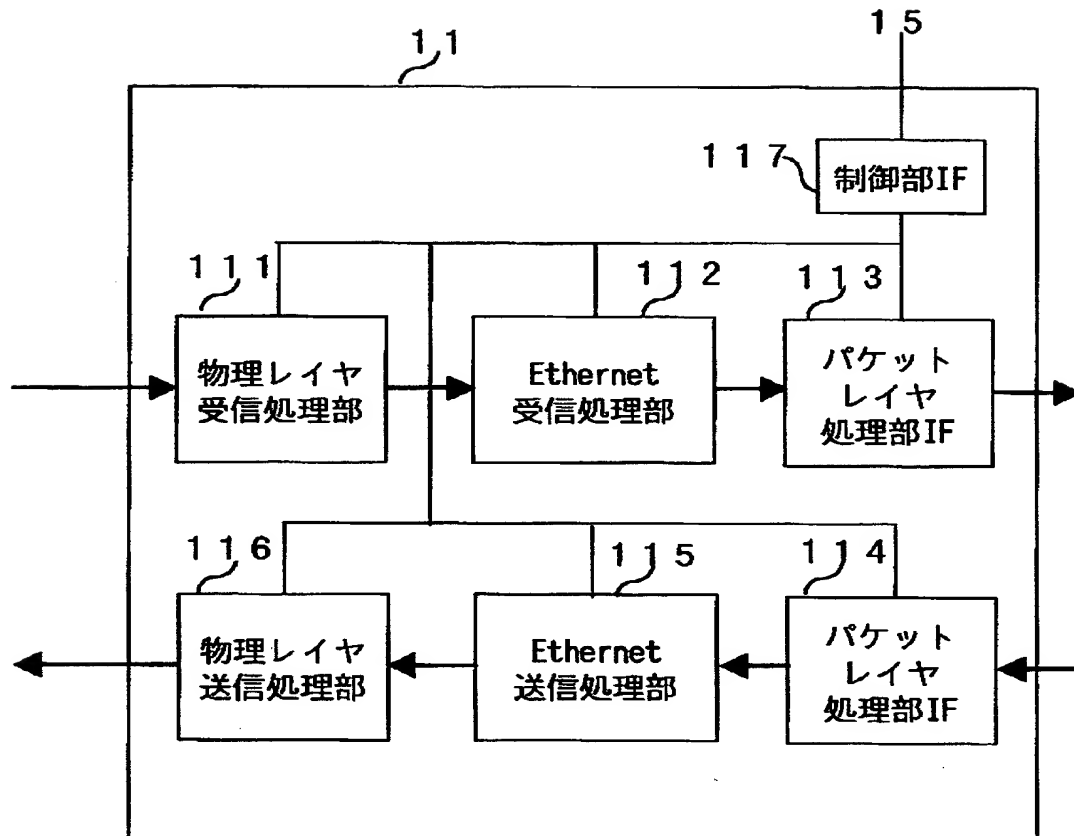


【図 8】



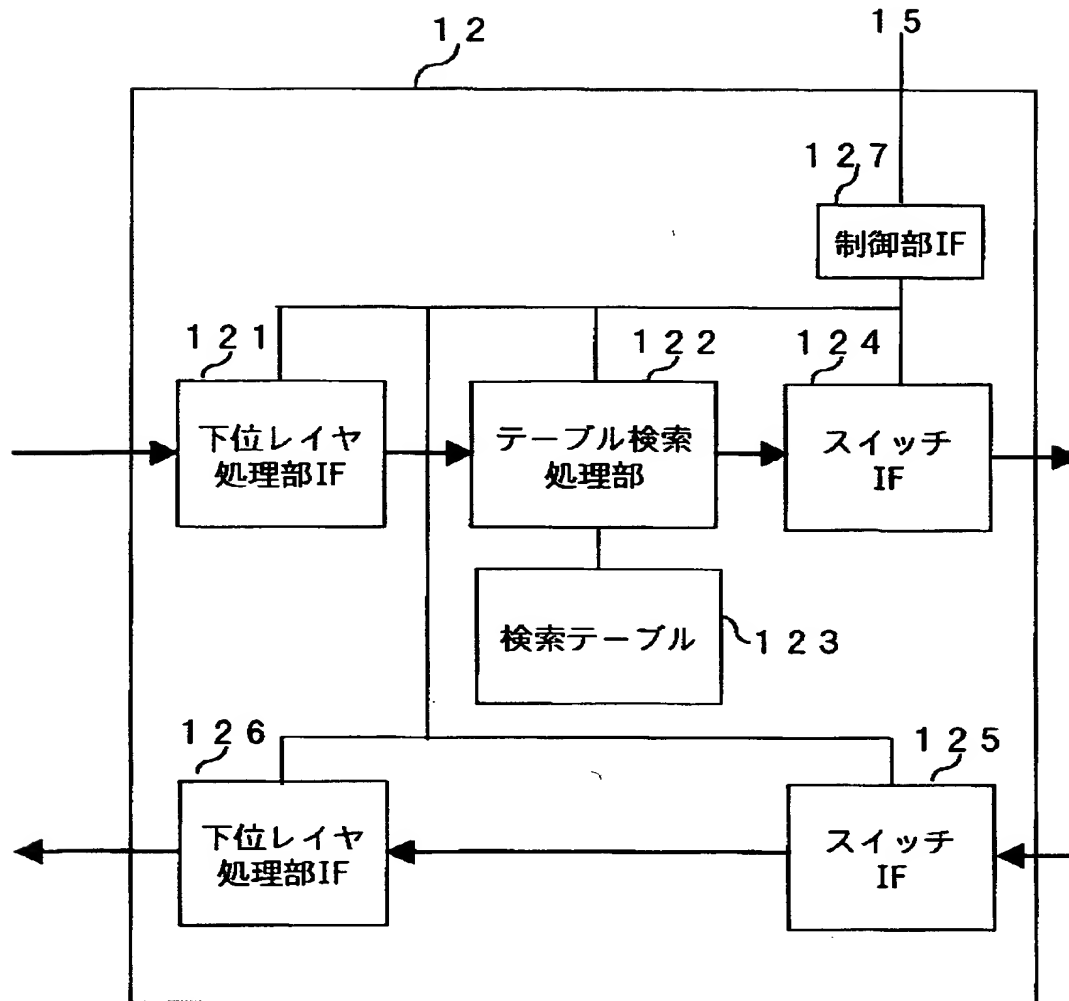
【図9】

図9



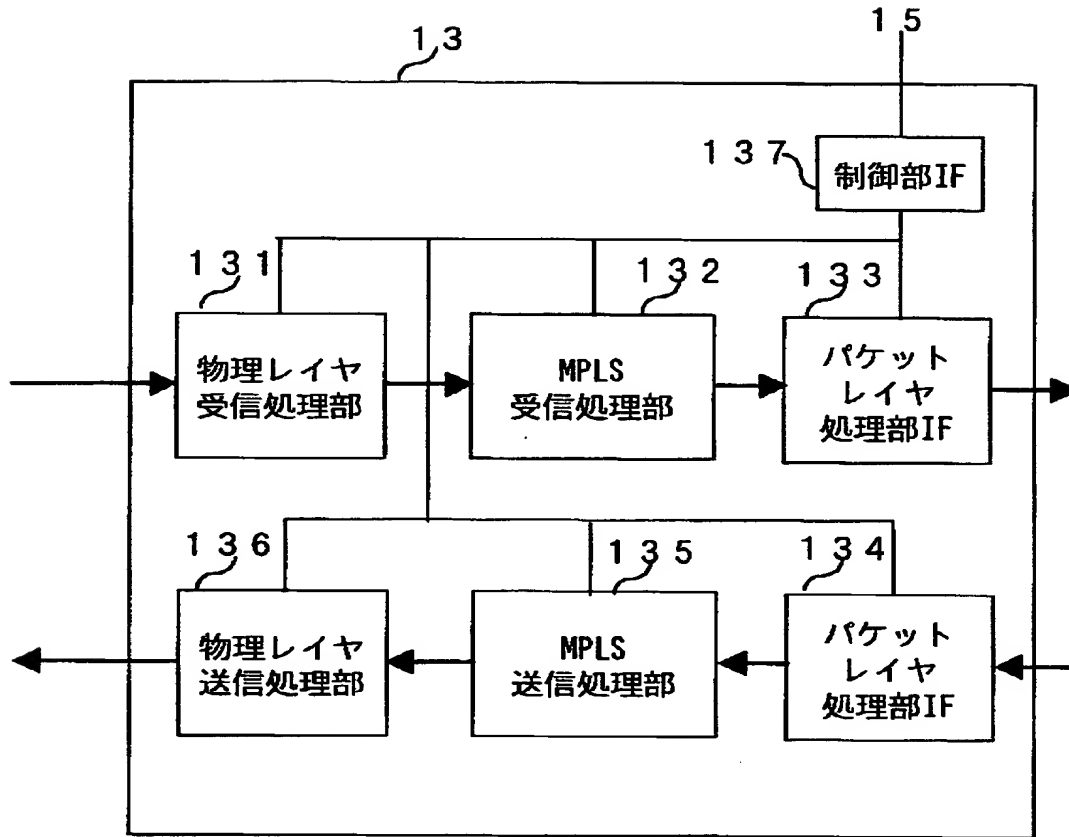
【図10】

図10



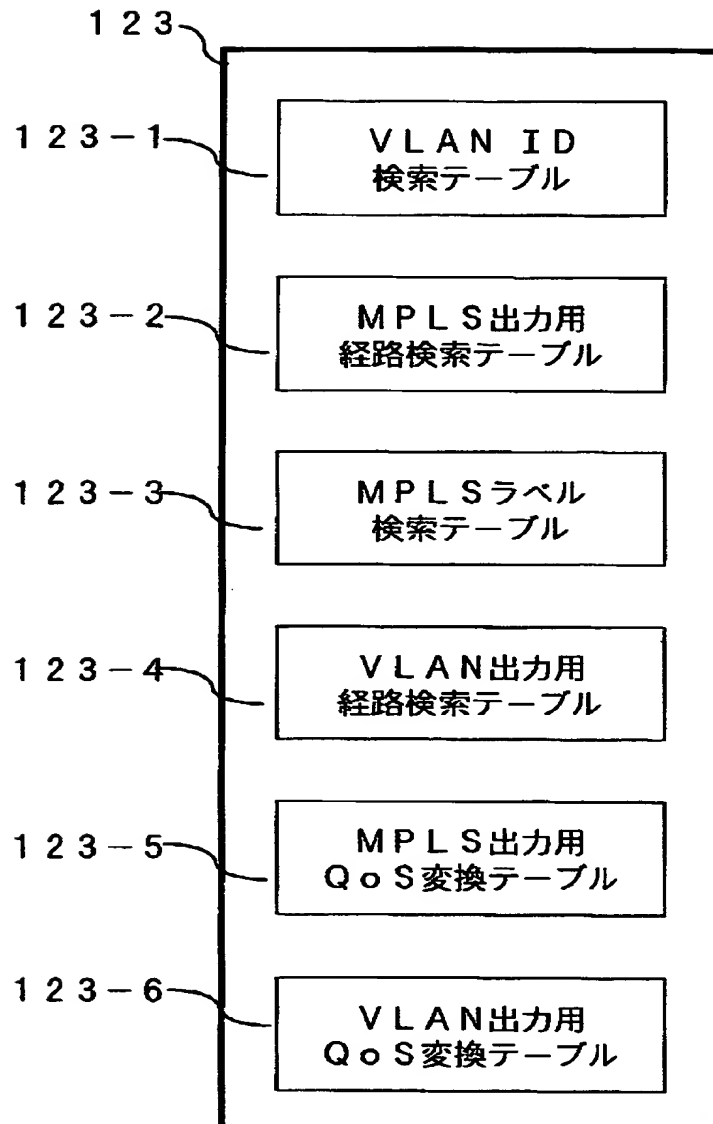
【図11】

図11



【図 1 2】

図 1 2



【図 1 3】

図 1 3

1 2 3 - 1 1 2 3 - 1 - 1 入力VLAN ID	1 2 3 - 1 - 2 VLAN
10	VLAN #A
20	VLAN #B
<div></div>	<div></div>

← 検索キー
← 検索結果 →

【図 1 4】

図 1 4

	1 2 3 - 2 - 1	1 2 3 - 2 - 2	1 2 3 - 2 - 3
1 2 3 - 2	宛先IPアドレス	出力ラベル	出力物理ポート
VLAN # A用	192.168.10.0	100	3
	192.168.20.0	101	5
1 2 3 - 2 - a			
VLAN # B用	192.168.10.0	102	5
	192.168.20.0	103	3
1 2 3 - 2 - b			

検索キー

検索結果

【図 1 5】

図 1 5

1 2 3 - 3 1 2 3 - 3 - 1 入カラベル	1 2 3 - 3 - 2 V L A N
100	V L A N # A
101	V L A N # A
102	V L A N # B
← 検索キー	← 検索結果

【図 1 6】

図 1 6

	1 2 3 - 4 - 1	1 2 3 - 4 - 2	1 2 3 - 4 - 3	1 2 3 - 4 - 4
1 2 3 - 4	宛先IPアドレス	MACアドレス	出力VLAN ID	出力物理ポート
VLAN # A 用	192.168.10.0	aa.bb.cc. dd.ee.fff	10 (VLAN # A)	8
	192.168.20.0	11.22.33. 44.55.66	10 (VLAN # A)	9
1 2 3 - 4 - a				
VLAN # B 用	192.168.10.0	aa.bb.cc. dd.ee.fff	20 (VLAN # B)	9
	192.168.20.0	11.22.33. 44.55.66	20 (VLAN # B)	8
1 2 3 - 4 - b				

検索キー 検索結果

【図 1 8】

図 1 8

TCP/IPヘッダ (宛先IPアドレス)	MPLS QoS	ユーザ プライオリティ
192.168.0.0	0	0
192.168.0.0	7	7

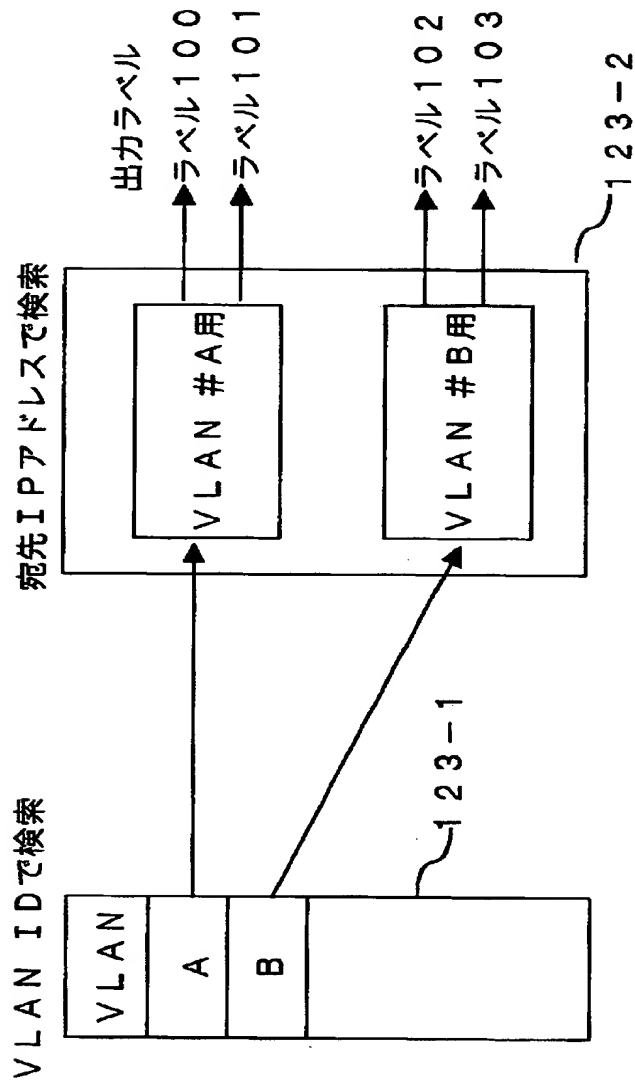
1 2 3 - 1 1 1 1 2 3 - 1 1 - 2 1 2 3 - 1 1 - 3

1 2 3 - 1 1

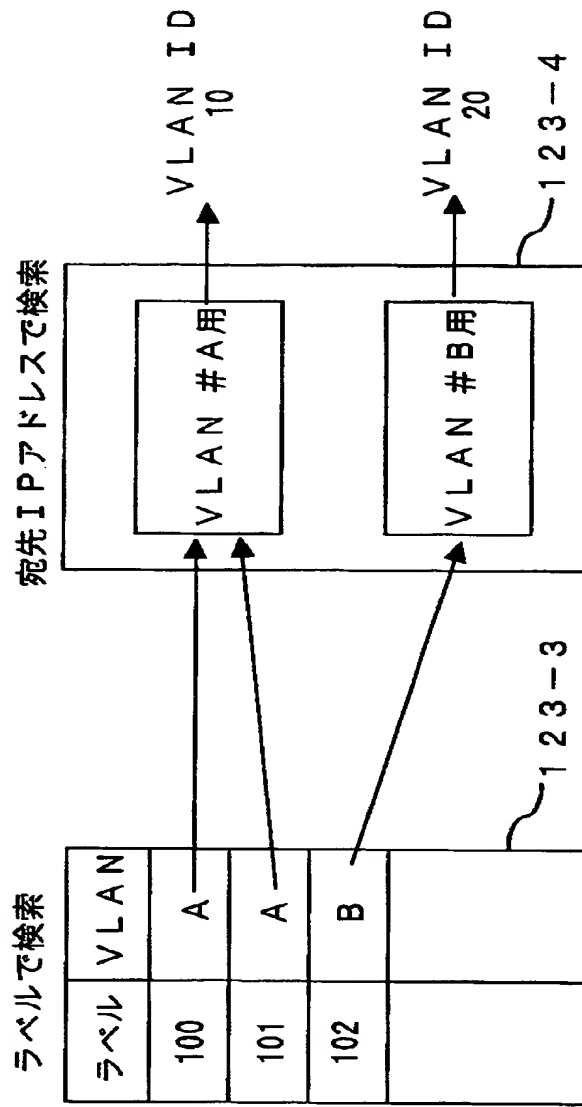
検索キー 検索結果

【図 1 9】

図 1 9



【図 2 0】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 V L A N 網の閉域性を維持した上で、地理的に離れた位置に存在する複数の V L A N 網を、 M P L S 網を用いて相互に接続することである。

【解決手段】 V L A N 網と M P L S 網をインタワークする装置において、 V L A N I D と M P L S のラベルを対応づける。 V L A N 網から M P L S 網へインタワークする装置では、 V L A N I D とパケットのレイヤ 3 またはレイヤ 4 ヘッダ情報の組から出力の M P L S ラベルを決定する。出力の M P L S ラベルは、 V L A N 毎に独立した値を割り当てる。 M P L S 網から V L A N 網へインタワークする装置では、入力 of M P L S ラベルを V L A N I D に対応付ける。

【効果】 V L A N 網間を M P L S 網でインタワークした際においても、閉域性を維持することが可能になる。また、エンドーエンドの Q o S 制御が可能になる。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 5 1 0 8]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 3 1 日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都千代田区神田駿河台 4 丁目 6 番地

氏 名 株式会社日立製作所